

研究・調査報告書

| 分類番号   | 報告書番号  | 担当     |
|--|--------|--------|
| C141   | 16-312 | 慶應義塾大学 |
| <b>題名(原題/訳)</b>  |        |        |
| Relay model for recruiting alcohol dependent patients in general hospitals--a single-blind pragmatic randomized trial.<br>総合病院でアルコール依存症患者を試験に入れることのリレーモデル。— 一重盲検实际的無作為試験 —   |        |        |
| <b>執筆者</b>   |        |        |
| Schwarz AS1、Bilberg R2、Bjerregaard L2、Nielsen B2、Sphigaard J3、Nielsen AS2。   |        |        |
| <b>掲載誌</b>   |        |        |
| BMC Health Serv Res. 2016 Apr 14;16:132  |        |        |
| <b>キーワード</b>   |        | PMID:  |
| アルコール依存症、アルコール使用障害、  |        |        |
| <b>要旨</b>  |        |        |
| <p>背景</p> <p>デンマークの多くの集団は、公式に推奨された1週の量より多くのアルコールを消費する。未治療のアルコール使用障害者はヘルスケアシステムとの頻繁な接触につながり、人と社会の相当の経費と関係していると思われる。</p> <p>しかしながら、アルコール使用障害を持つ人々の中の小集団だけが治療を受けている。退院後にアルコール依存的な患者の治療を確実にする照会モデルが、必要である。</p> <p>本研究は、提案された照会モデル — Relay Model — の i) 費用効果、ii) 有効性、iii) 社会のコストに対する全体の衝撃を評価する。</p> <p>方法とデザイン</p> <p>本研究は、入院した患者を含む一重盲検实际的無作為対照臨床試験である。研究群(n = 500)は介入を受ける、そして、対照群(n = 500)は通常の処置によって治療を参照する。すべての患者は、Alcohol Use Disorders Identification Test が症例同定の戦略として組み込まれ、生活様式アンケートに記入する。本研究の主要目標は、退院後の12ヵ月の保健医療費である。第2の結果目標は、退院30日後にアルコール治療クリニックを訪れた目標群のパーセンテージである。両方の結果を分析するために、差異モデルを使った。</p> <p>討論</p> <p>通常の処置による照会と比較して、Relay Model がコスト中性的であるか費用効果的かどうかに関して、証拠を樹立することを期待する。</p> |        |        |